

## アッприカ・チルドレンズプロダクツ合同会社

〒542-0082 大阪市中央区島之内1-13-13

お客様サポートセンター TEL 0120-415-814

携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担) TEL 0570-004-155

受付時間:AM10:00~PM5:00(土、日、祝日、弊社所定休日を除く)

### 〈お願い〉

- ・本書に使用しているイラストは、操作方法や仕組みなどを分かりやすくするため、実物とは多少異なる場合があります。
- ・本書の内容について、誤りや記載もれなどお気づきの点がありましたら、弊社お客様サポートセンターまでご連絡ください。
- ・製品の品質向上のため予告なしに一部仕様変更する場合もありますのであしからずご了承ください。

## 抱っこひも コランハグ AB

### 取扱説明書／保証書

このたびは、アップリカ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。  
この製品は新生児から体重15kgまでのお子さま1人用抱っこひもです。



※腰ベルトサイズ:74cm~118cm。

※体型によって冬場など厚着の時には使用できない場合があります。

ご使用の前に、取扱説明書(本書)をよくお読みのうえ正しくお使いください。  
本書に記載されている以外の方法でご使用されると、製品の機能が充分発揮できないだけでなく大変危険です。本書をお読みになった後は、いつでも取り出せる場所に必ず保管してください。

本製品(抱っこひも)に新生児シートを組み合わせた場合のみ新生児からお使いいただけます。

### もくじ

#### ご使用前に

抱っこひものについて	1
表示内容について	1
使用できるお子さまの月齢について	1
安全にお使いいただくために	2

ご使用上の注意	3-4
---------	-----

製品を取り出した時に	5-6
------------	-----

パックルの使い方	7
----------	---

ベルトの調節方法	7
----------	---

ヨコ抱っこ	〈新生児から首すわり 体重7kgまで〉
-------	---------------------

ヨコ抱っこの準備	8-11
----------	------

ヨコ抱っこの装着方法	12-14
------------	-------

ヨコ抱っこの使用時	15
-----------	----

ヨコ抱っこの降ろし方	15
------------	----

タテ抱っこ	〈首がすわってから 体重13kgまで〉
-------	---------------------

新生児シートの取り外し方	16-17
--------------	-------

ハーネスの使い方	17
----------	----

タテ抱っこの準備	18
----------	----

タテ抱っこ(腰ベルト)の装着方法	18-21
------------------	-------

月齢が小さい時	22
---------	----

おやすみカーテン	22
----------	----

おんぶ	〈首がすわってから 体重15kgまで〉
-----	---------------------

おんぶの装着方法	23-25
----------	-------

タテ抱っこからおんぶへ	25-27
-------------	-------

おやすみカーテン	28
----------	----

月齢が小さい時	29
---------	----

おんぶの降ろし方	29
----------	----

前向き抱っこ	〈ひとり座りができるから 体重13kgまで〉
--------	------------------------

前向き抱っこ(腰ベルト)の装着方法	30-32
-------------------	-------

前向き抱っこ(腰ベルト)の降ろし方	32
-------------------	----

腰抱っこ	〈ひとり座りができるから 体重15kgまで〉
------	------------------------

腰抱っこ(腰ベルト)の装着方法	33-35
-----------------	-------

その他	
-----	--

本体の折りたたみ方	36
-----------	----

Q&A	37-38
-----	-------

点検について	39
--------	----

お手入れについて	39
----------	----

SGマーク制度について	40
-------------	----

保証とアフターサービスについて	41
-----------------	----

保証書	42
-----	----

## 抱っこひもについて

- この製品は、お子さまを抱っこやおんぶして、外気浴、買い物の時などに使用するための1人用抱っこひもです。
- ご使用の前にP5「各部の名称」をご確認ください。

## 表示内容について

- 「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度の大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表示	表示の内容
⚠️ 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠️ 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

## 使用できるお子さまの月齢について

- お子さまの発育は個人差がありますので月齢表示は目安にしてください。

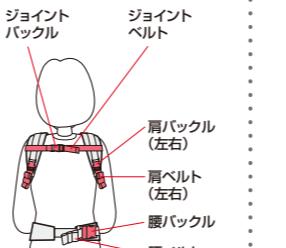
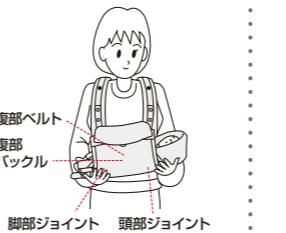
参考月齢	0ヶ月	首すわり(4ヶ月)	ひとり座り(7ヶ月)	24ヶ月	36ヶ月	体重
ヨコ抱っこ	2.5kg	新生児から(4ヶ月頃まで)				7kgまで
タテ抱っこ		首がすわった4ヶ月から24ヶ月(体重13kg)まで				13kgまで
前向き抱っこ			ひとり座りができる7ヶ月から24ヶ月(体重13kg)まで			13kgまで
腰抱っこ				ひとり座りができる7ヶ月から36ヶ月(体重15kg)まで		15kgまで
おんぶ		首がすわった4ヶ月から36ヶ月(体重15kg)まで				15kgまで

※お子さまの衣類の厚みや体格によっては使用できない場合があります。

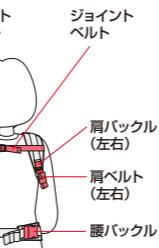
## 安全にお使いいただくために

- ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。
- ベルトの長さを装着者の身体にあわせて、調節してください。
- 脚部を露出したお子さまに使用された場合、肌に抱っこひもの跡がついたり、稀に肌がこすれて赤くなることがあります。その場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、抱っこひもに直接触れないようにしてください。

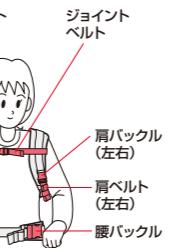
### ヨコ抱っこ



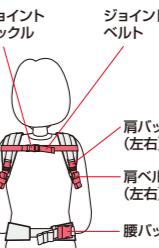
### タテ抱っこ



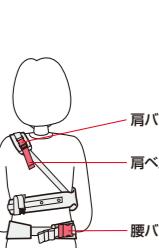
### おんぶ



### 前向き抱っこ



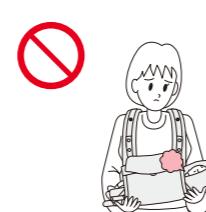
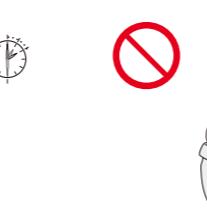
### 腰抱っこ



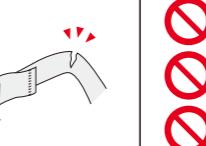
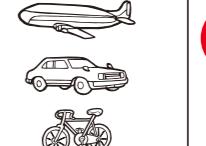
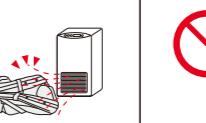
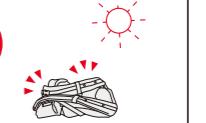
- ご使用の際は頭部バックル、腹部バックル、脚部バックル、肩バックル、腰バックル、ジョイントバックルを外した状態で使用しない。お子さまが落し、けがをするおそれがあります。
- ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。お子さまと装着者の間にすき間がありすぎると、お子さまの予期せぬ動きに対応できず落し、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。
- タテ抱っこ、おんぶ、前向き抱っこでの使用時は、ハーネスを外した状態で使用しない。お子さまが落し、けがをするおそれがあります。

## ご使用上の注意

ここに記載した内容は非常に重要です。よくお読みになり、必ず守ってください。

△ 警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。				
肩パックル、腰パックル、ジョイントパックルを外した状態で使用しない。 お子さまが落っこし、けがをするおそれがあります。	肩ベルト、腰ベルト、ジョイントベルトは必ず調節し、緩めた状態で使用しない。 お子さまが落っこし、けがをするおそれがあります。	走ったり、跳んだり、前かがみなどの無理な姿勢をとらない。 お子さまが落っこし、けがをするおそれがあります。	タテ抱っこ、前向き抱っこ、おんぶは首のすわらない、お子さまに使用しない。 お子さまが体調を損なうおそれがあります。	
				
タテ抱っこ、おんぶ、前向き抱っこの使用時は、お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。 お子さまが落っこし、けがをするおそれがあります。			授乳後30分以内は使用しない。 お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。 装着状況を確認する必要があるため、連続2時間以上使用しない。 お子さま、装着者が体調を損なうおそれがあります。	
				

ご使用前に

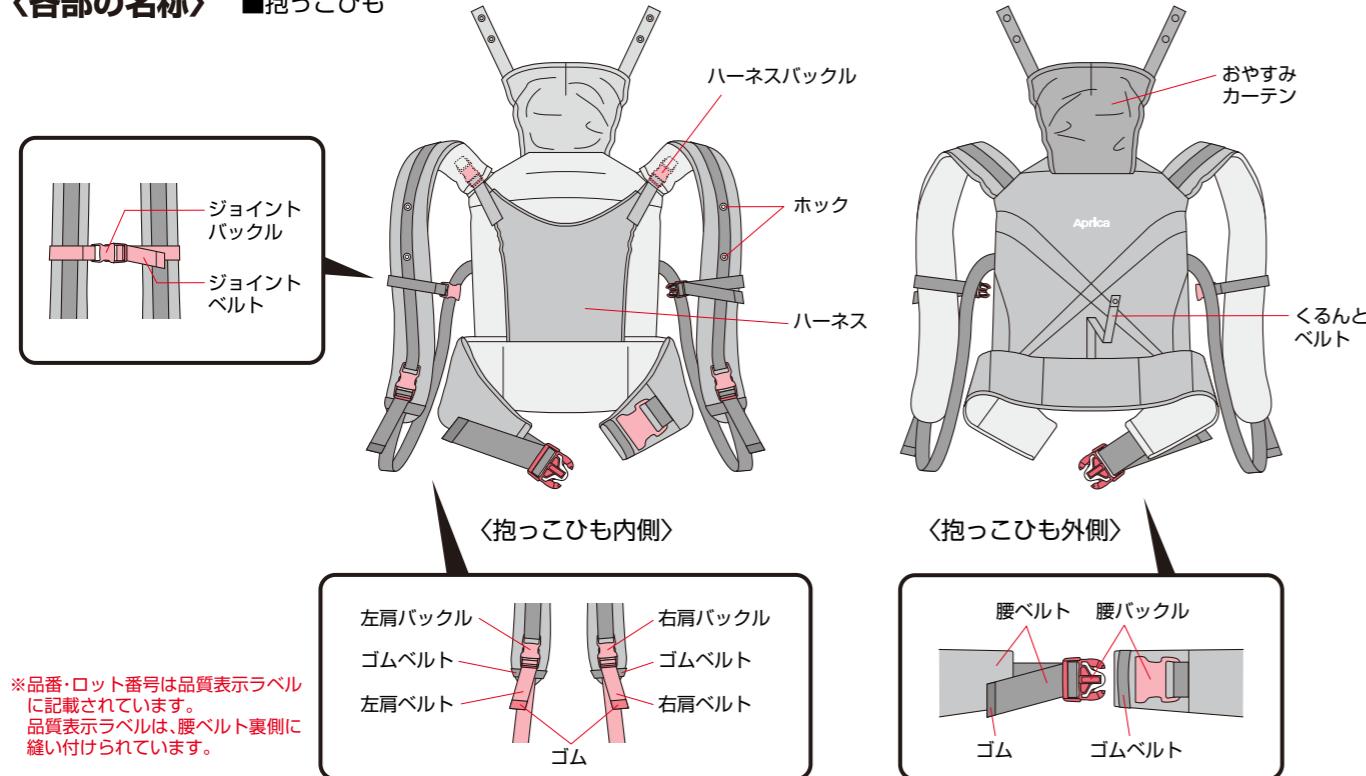
△ 警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。				
ヨコ抱っこでは新生児シートを外した状態で使用しない。 お子さまが落っこし、けがをするおそれがあります。				
ヨコ抱っこでは、体重7kgを超えるお子さまや寝返りのできるお子さまに使用しない。 お子さまが落っこし、けがをするおそれがあります。	前向き抱っこでは、体重13kgを超えるお子さまに使用しない。 お子さまが落っこし、けがをするおそれがあります。	着脱する際は、お子さまの落下に注意し正しく装着する。 乳幼児が開口部から落下するおそれがあります。	生後4ヶ月未満の乳児は、装着者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。本製品内で窒息するおそれがあります。	乳幼児を装着者の身体に強く縛り付けた状態にしない。乳幼児の頭部を動かす余裕があるようにはじめます。
タテ抱っこ、おんぶでは15kgを超えるお子さまに使用しない。 お子さまが落っこし、けがをするおそれがあります。	おんぶや抱っこをする時や降ろす時は低い姿勢で行う。身体を傾ける際にお子さまが落っこないように気を付け、手で支える。またお子さまの頭が下向きにならない様に膝を曲げて腰を中止してください。 思ひぬ事故につながるおそれがあります。	装着者およびお子さまの体調がすぐれない時や、使用中に痛みや不快を感じた時は直ちに使用を中止してください。 思ひぬ事故につながるおそれがあります。	お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。	お子さまの気道をふさぐないように状態に注意しながら使用すること。窒息や思ひぬ事故につながるおそれがあります。
・使用時は必ずハーネスを取り付ける。 ・お子さまを乗せる時や降ろす時は、必ず安全な場所で行う。 ・お子さまが落っこし、けがをするおそれがあります。	・お子さまの頭が強く装着者の胸につき、気道をふさぐ状態で使用しない。気道がふさがると窒息するおそれがあります。	・梱包袋(パッケージ)はお子さまがかぶらないよう放置しない。窒息する可能性があります。	・飛行機、車、自転車、バイクでは使用しない。 ・ヨコ抱っこでの使用時は、お子さまの頭が下がらないように左手でささえよ。お子さまが落っこしたり思ひぬ事故につながります。	
				
△ 注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。				
装着者およびお子さまの体調がすぐれない時や、使用中に痛みや不快を感じた時は直ちに使用を中止してください。				
パックルは使用していない時も外したものにしない。お子さまがパックルに指を入れるおそれがあります。	抱っこでは足元が見えにくくなる場合がありますので歩行には充分注意してください。	暖房器具の近くなど高温になる場所に放置しない。	直射日光のある場所に保管しない。変色や劣化が早まります。	その他、荷物などの運搬や、お子さまを抱っこ、おんぶする以外の目的での使用。
				

ご使用前に

## 製品を取り出した時に

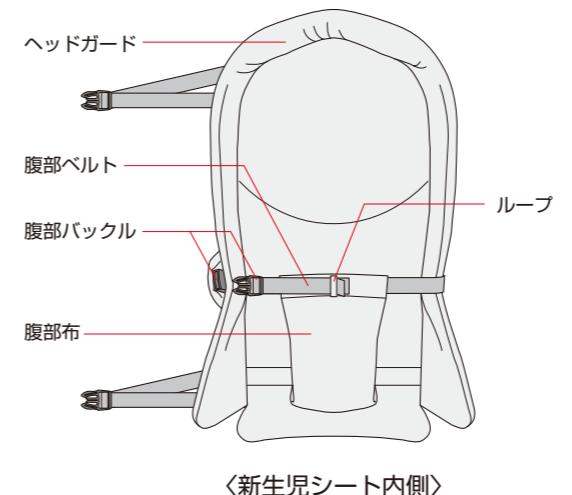
- ・製品を取り出した後は、部品が揃っているか、破損がないかを確認してください。
- ・欠品や破損の際は、弊社お客様サポートセンターまでみやかにご連絡ください。

### 各部の名称 ■抱っこひも

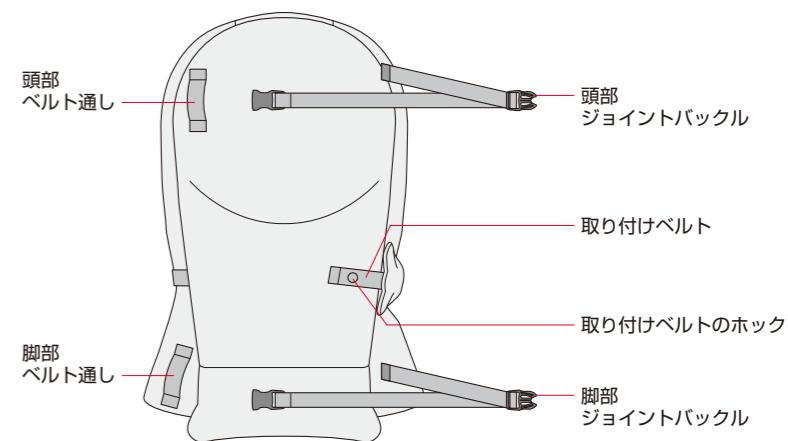


ご使用前に

### ■新生児シート



〈新生児シート内側〉



〈新生児シート外側〉

### 付属品



取扱説明書(本書)

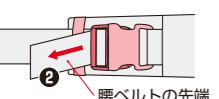
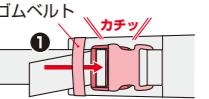
ご使用前に

## バックルの使い方

### 〈腰バックル・肩バックル〉

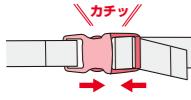
#### とめ方

- 腰バックルをゴムベルトに通し、腰バックルをとめる。
- 腰ベルトの先端をゴムベルトの上側に引き出す。



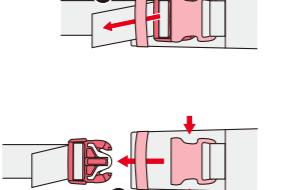
### 〈ジョイントバックル・ハーネスのバックル・腹部バックル〉

#### とめ方



#### 外し方

- 腰ベルトの先端をゴムベルトに通す。
- 腰バックルを外し、腰バックルをゴムベルトから抜き取る。



#### 外し方

## ベルトの調節方法



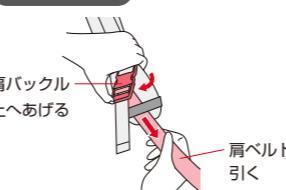
・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。お子さまと装着者の間にすぎ間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下し思わず事故やけがをするおそれがあります。

### 〈肩ベルト〉

#### 短くする時

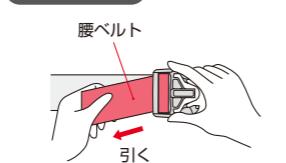


#### 長くする時



### 〈腰ベルト〉

#### 短くする時

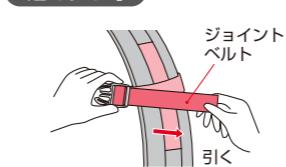


#### 長くする時



### 〈ジョイントベルト・ハーネスのバックルベルト・腹部ベルト〉

#### 短くする時



#### 長くする時

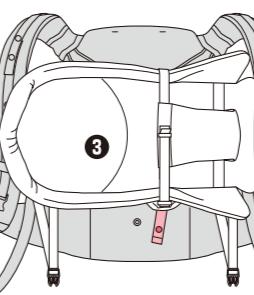
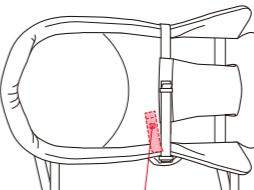
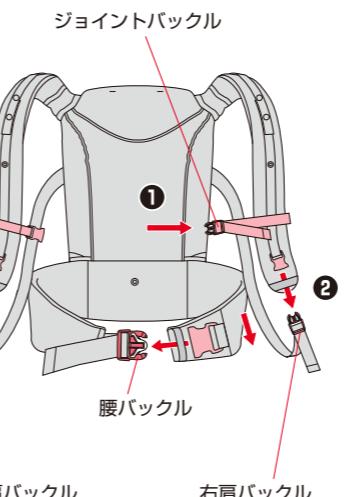


## ヨコ抱っこの準備

### ①安全な場所に抱っこひもを広げる。

- 右肩バックル、左肩バックル、腰バックル、ジョイントバックルを外す。

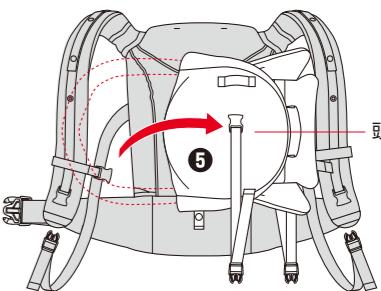
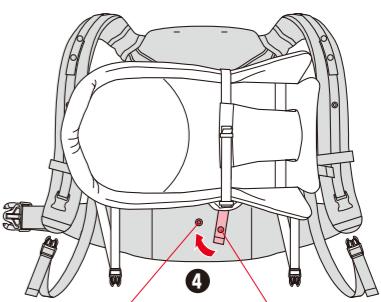
### 〈抱っこひも内側〉



・取り付けベルトのホックを外した状態で使用しない。お子さまが落っこしがをするおそれがあります。

- 新生児シート(頭部が左側にくるように)を抱っこひもの上に横向きにのせる。
- 取り付けベルトのホックを抱っこひもの腰ベルトのホックにとめる。

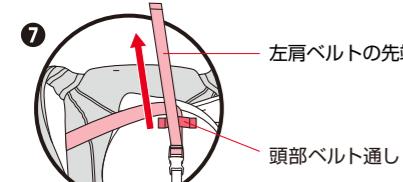
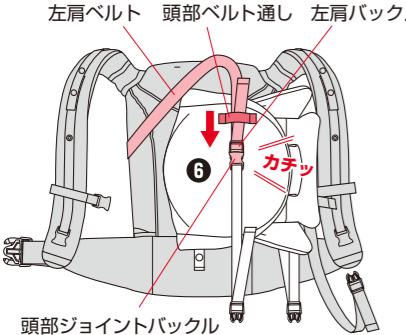
- 新生児シートの頭部側を谷折りにする。



## ヨコ抱っこの準備(つづき)

❶抱っこひもの左肩ベルトを伸ばし、左肩バックルをねじれのないように新生児シートの頭部ベルト通しに通し、頭部ジョイントバックルにとめる。

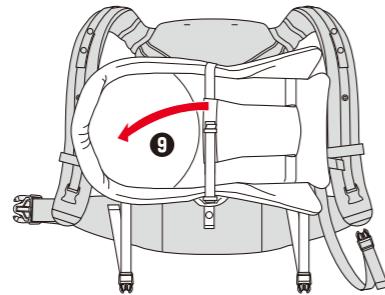
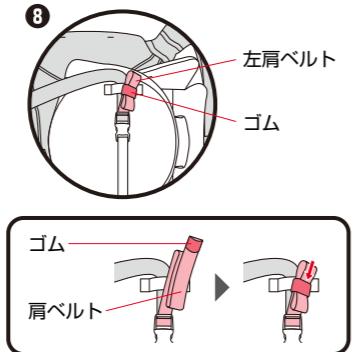
❷頭部ベルト通しから左肩ベルトの先端を引き出し、左肩ベルトのたるみがないように調節する。



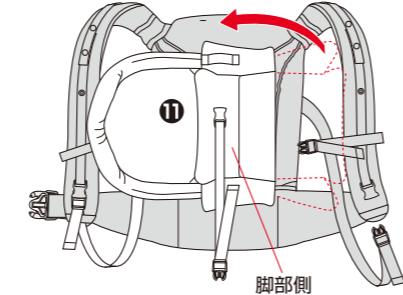
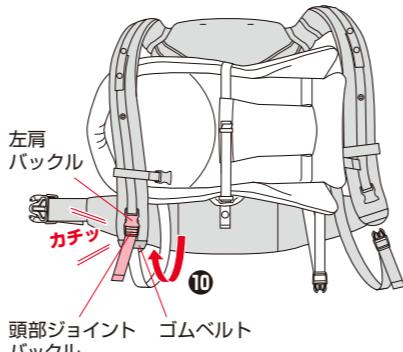
・左肩ベルトを短くするとヨコ抱っこ時に、新生児シートと本体がずれにくくなります。(P11 参照)

**アドバイス**

❸あまたた左肩ベルトをゴムでまとめる。  
❹新生児シートを戻す。

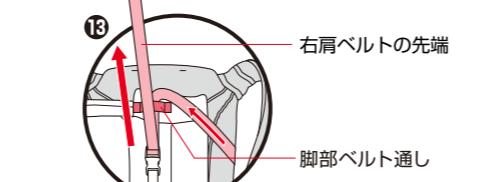
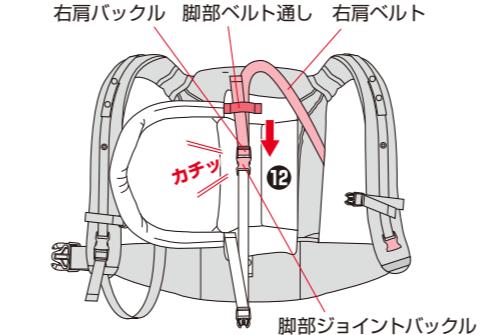


❽頭部ジョイントバックルをゴムベルトに通し、ねじれのないように左肩バックルにとめる。  
❾新生児シートの脚部側を谷折りにする。



❿抱っこひもの右肩ベルトを伸ばし、右肩バックルをねじれのないように新生児シートの脚部ベルト通しに通し、脚部ジョイントバックルにとめる。

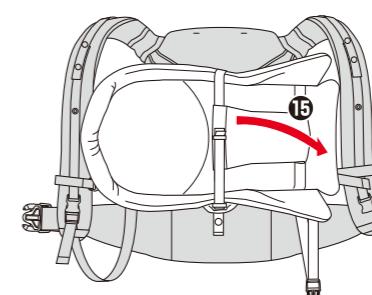
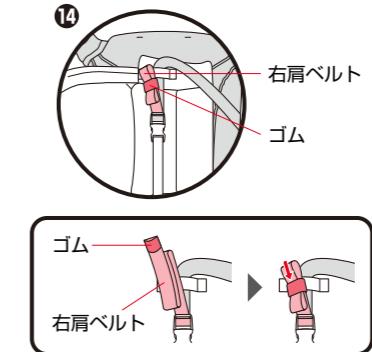
⓫脚部ベルト通しから右肩ベルトの先端を引き出し、右肩ベルトのたるみがないように調節する。



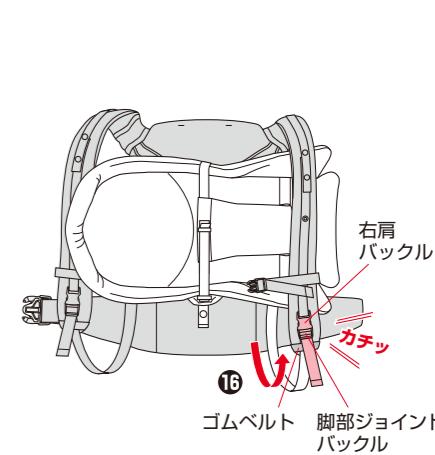
・右肩ベルトを短くするとヨコ抱っこ時に、新生児シートと本体がずれにくくなります。(P11 参照)

**アドバイス**

⓬あまたた右肩ベルトをゴムでまとめる。  
⓭新生児シートを戻す。



⓮脚部ジョイントバックルをゴムベルトに通し、ねじれのないように右肩バックルにとめる。



**ヨコ抱っこ**

新生児～首すわり体重  
7 kg

(つづく)

**ヨコ抱っこ**

新生児～首すわり体重  
7 kg

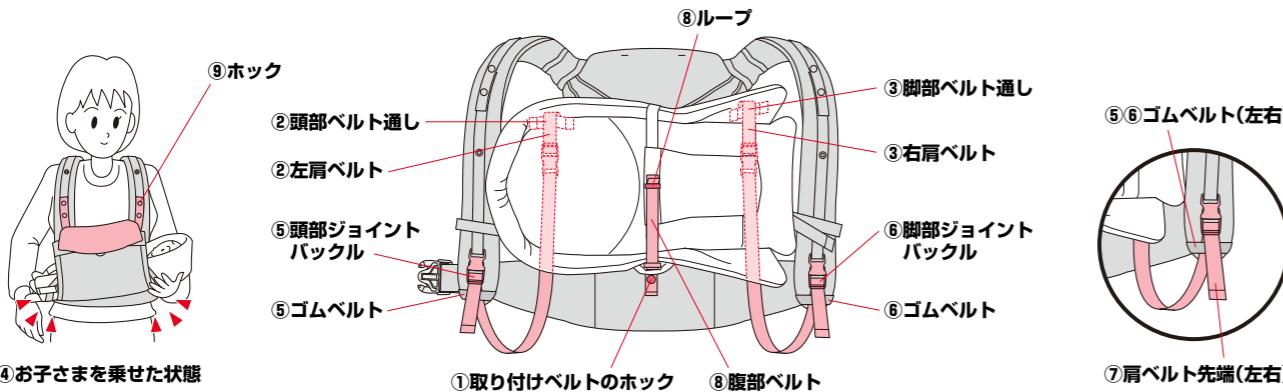
10

## ヨコ抱っこの準備(つづき)

①新生児シートの取り付けの状態を確認してください。正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

### ヨコ抱っこの準備(新生児シート取り付け)の確認ポイント

- ①取り付けベルトのホックを抱っこひもの腰ベルトのホックにとめている
- ②左肩ベルトがねじれずに頭部ベルト通しを通っている
- ③右肩ベルトがねじれずに脚部ベルト通しを通っている
- ④左右の肩ベルトを短く調節する
- ⑤頭部ジョイントバックルがゴムベルトを通ってとまっている
- ⑥脚部ジョイントバックルがゴムベルトを通ってとまっている
- ⑦左右の肩ベルト先端がゴムベルトの上に出ている
- ⑧あまたった腹部ベルトの先端をループに通している
- ⑨おやすみカーテンのホックを肩ベルトにとめる



ヨコ抱っこ

新生児～首すわり体重  
7 kg

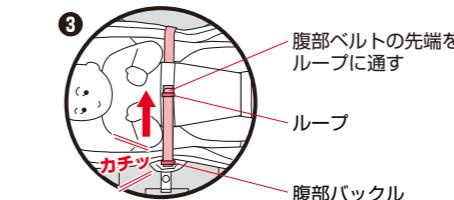
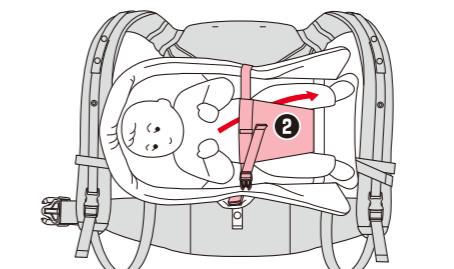
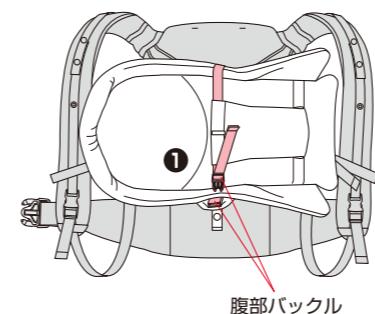


・取り付け状態を確認すること。  
正しく取り付けてないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

## ヨコ抱っこの装着方法

①腹部バックルを外す。

- ②安全な場所でお子さまを乗せて、左足を通す。
- ③腹部バックルをとめて、腹部ベルトを調節する。
- ④腰バックルをゴムベルトに通す。
- ⑤装着者の腰に腰ベルトをまわして腰バックルをとめる。



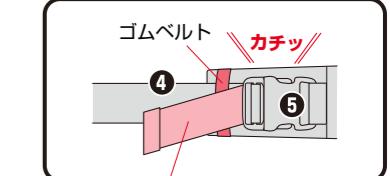
### アドバイス

・お子さまのお腹周りは、大人の指が2～3本に入る程度に腹部ベルトを調節します。



・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。  
不安定な場所などでは、お子さまが落ちるおそれがあります。

- 腰ベルトの先端をゴムベルトの上に出す



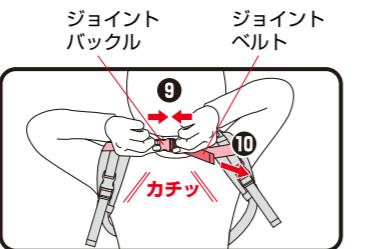
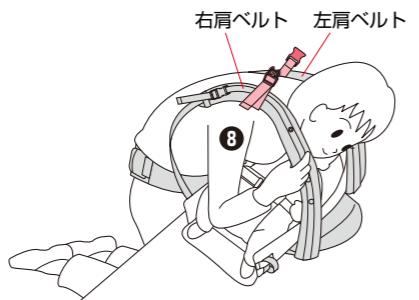
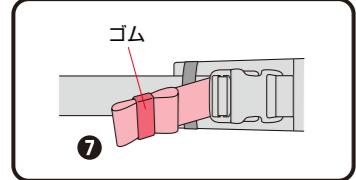
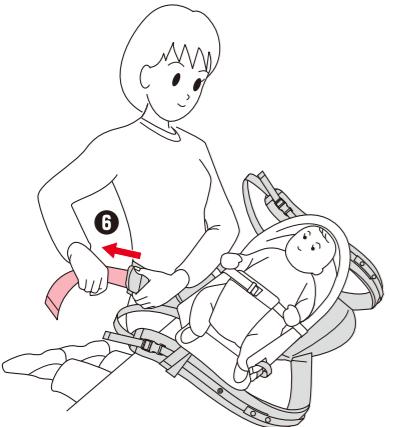
(つづく)

ヨコ抱っこ

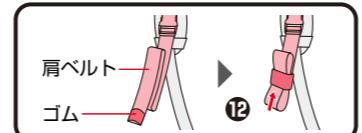
新生児～首すわり体重  
7 kg

## ヨコ抱っこの装着方法(つづき)

- ⑥腰ベルトが腰骨より高い位置にくる  
ように調節する。  
⑦あまったベルトをゴムでまとめる。



- ⑨前かがみになり、左右の肩ベルトに腕を通す。  
⑩首の後ろでジョイントバックルをとめる。  
⑪ジョイントベルトをきつめに調節する。  
⑫あまったベルトをゴムでまとめる。



### アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節し  
なおしてください。

- ⑬お子さまの頭部を支えて、左右の  
肩ベルトを調節し、お子さまの位置を  
調える。  
⑭あまったベルトをゴムでまとめる。

## ヨコ抱っこ確認ポイント

### 〈お子さま〉

- ①腹部バックルが確実にとまっている
- ②腹部ベルトを大人の指が2~3本  
入る程度に調節している
- ③あまった腹部ベルトの先端を  
ループに通している

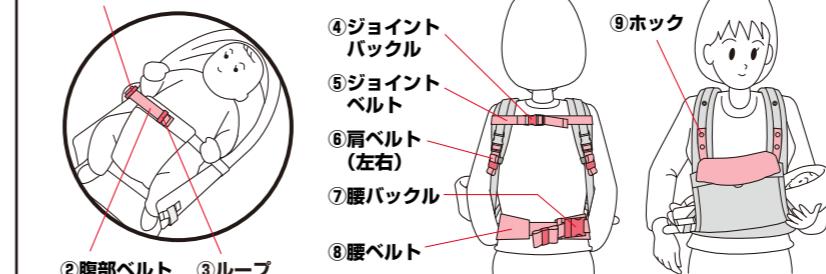
### 〈着装者〉

- ④ジョイントバックルが確実にとまっている
- ⑤ジョイントベルトをきつめに調節している
- ⑥肩ベルトを調節している
- ⑦腰バックルが確実にとまっている
- ⑧腰ベルトが腰骨の上にある
- ⑨おやすみカーテンのホックを肩ベルトにとめる

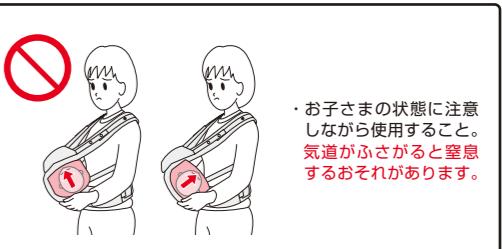
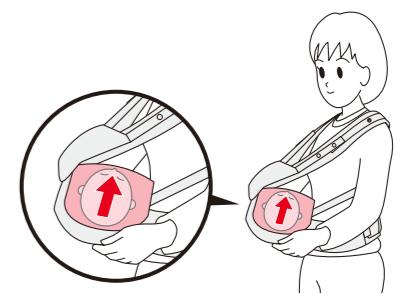
### 〈新生児シートの角度〉

- ・お子さまの顔が少し内側に向くぐらいが最適です。

### ①腹部バックル



・装着状態を確認すること。  
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思ひぬ事故につながる  
おそれがあります。



## ヨコ抱っこの使用時

- ・ヨコ抱っこの使用時は、お子さまの頭が下がったり、装着者から離れないように左手で頭部を支えてください。

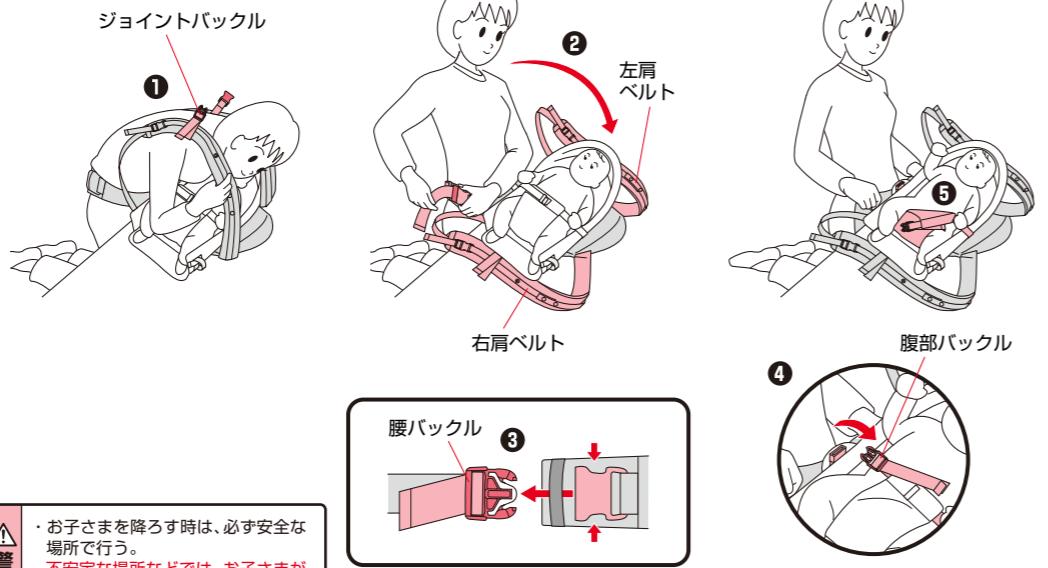


ヨコ抱っこ



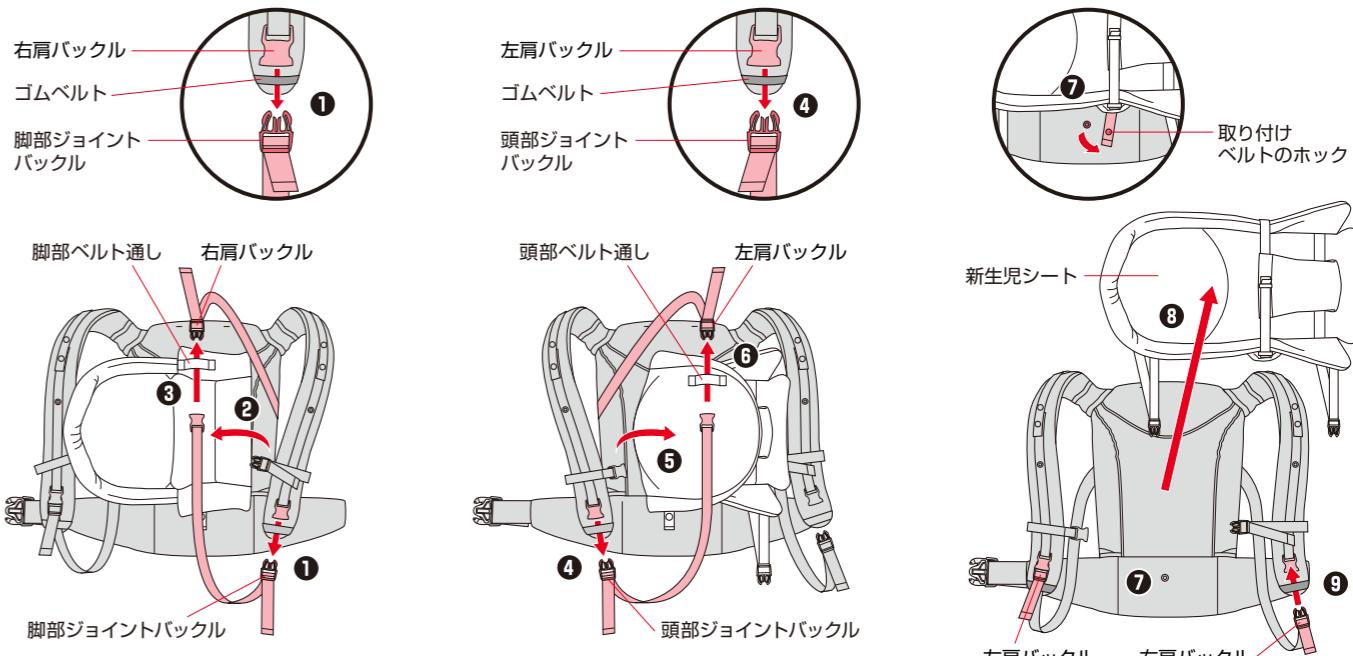
## ヨコ抱っこの降ろし方

- ①お子さまを安全な場所に寝かせ、ジョイントバックルを外す。
- ②抱っこひもの左右肩ベルトを装着者の肩から外す。
- ③腰バックルを取り外す。
- ④新生児シートの腹部バックルを取り外す。
- ⑤お子さまを降ろす。



## 新生児シートの取り外し方

- ①脚部ジョイントバックルを外す。
- ②新生児シートの脚部側を谷折りにする。
- ③右肩バックルを外し、脚部ベルト通しから抜き取る。
- ④頭部ジョイントバックルを外す。
- ⑤新生児シートの頭部側を谷折りにする。
- ⑥左肩バックルを外し、頭部ベルト通しから抜き取る。
- ⑦取り付けベルトのホックを外す。
- ⑧新生児シートを取り外す。
- ⑨左右の肩バックルをねじれのないようにとめる。



(つづく)

## タテ抱っこ

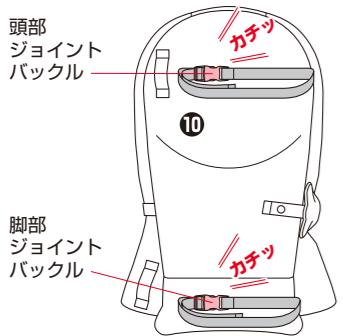
首すわり～体重13kg

16

## 新生児シートの取り外し方（つづき）

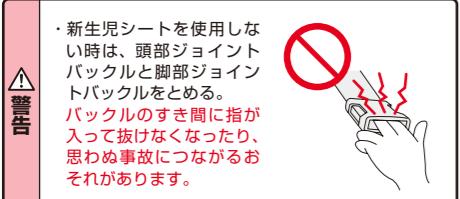
①新生児シートの頭部ジョイントバックルと  
脚部ジョイントバックルをとめて、お子さま  
の手の届かない所に保管する。

※再度抱っこひもに取り付ける時は頭部ジョ  
イントバックルと脚部ジョイントバックル  
を外してください。



### タテ抱っこ

首すわり～体重  
13 kg



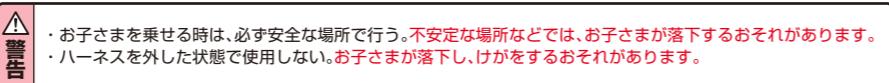
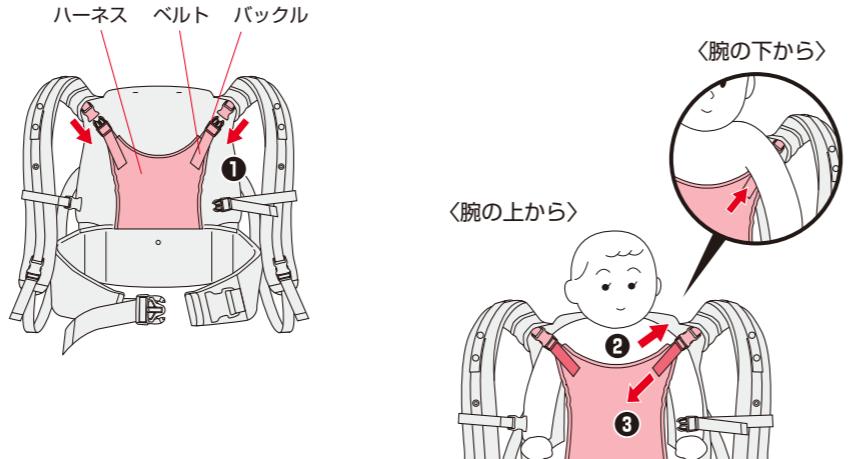
## ハーネスの使い方

①ハーネスのバックルを外す。

②お子さまを乗せて、ハーネスのバックル  
をとめる。  
③ハーネスのバックルベルトを調節する。

### アドバイス

・お子さまの成長に合わせて、ハーネスのバックルを腕の  
上から又は、腕の下からとめる。

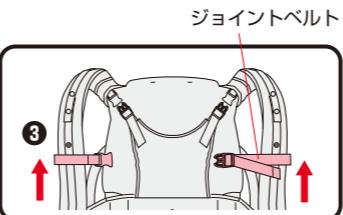
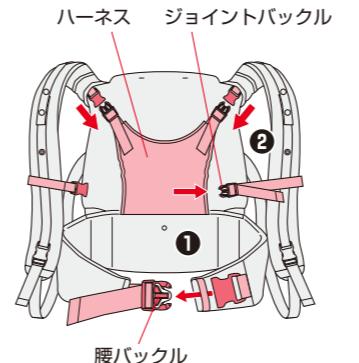


## タテ抱っこの準備

①腰バックルとジョイントバックルを外す。  
②ハーネスのバックルを外す。  
③ジョイントベルトを上にすらす。

### アドバイス

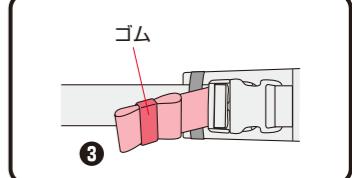
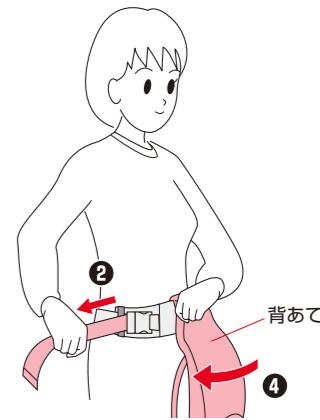
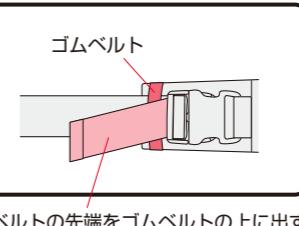
・ジョイントベルトを上にすらすと、後で(P20 ①)首の後ろ  
でジョイントバックルがとめやすくなります。



## タテ抱っこの装着方法

①腰バックルをゴムベルトに通して、  
とめる。

②腰ベルトを調節する。  
③あまたベルトをゴムでまとめる。  
④背あて部を正面にする。



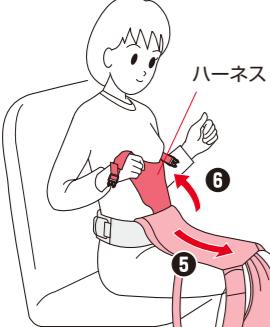
### タテ抱っこ

首すわり～体重  
13 kg

## タテ抱っこの装着方法（つづき）

（つづく）

- ❶抱っこひも本体を膝の上に広げる。  
❷ハーネスを手前にめくり上げる。



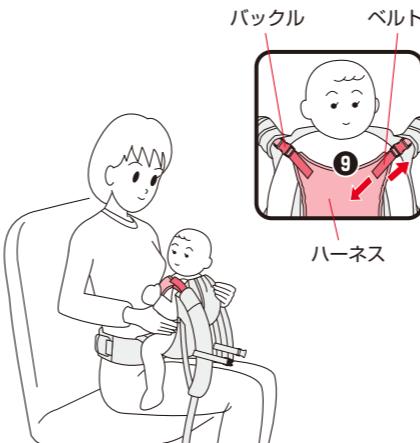
- ❸お子さまを抱き上げ、本体とハーネスの間に乗せる。



- ❹片方の手でお子さまを支え、抱っこひも本体をお子さまの背中にかぶせる。



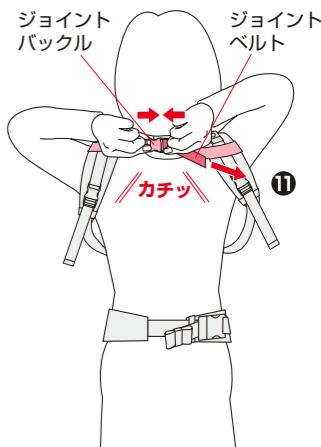
- ❺片方の手でお子さまを支え、ハーネスのバックルをとめ、ベルトを調節する。



- ❻片方の手でお子さまを支え、左右の肩ベルトをかける。



- ❼首の後ろでジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。



タテ抱っこ

首すわり／体重  
13 kg



- ・抱っこする時や降ろす時は低い姿勢で行う。身体を傾ける際に落下しないように気を付け、手で支える。また頭が下向きにならないよう膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。お子さまが落下するおそれがあります。
- ・着脱する際はお子さまの落下に注意し正しく装着する。お子さまが開口部から落下するおそれがあります。
- ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出でないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下したり、けがをするおそれがあります。

## アドバイス

- ・お子さまの腕は、肩ベルトの外側でも内側でも構いません。ただし外側に出している時に、お子さまが反り返る場合は、肩ベルトの内側に腕を入れてください。



- ・お子さまを装着者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・乳幼児を装着者の身体に強く縛り付けた状態にしない。乳幼児の頭部を動かす余裕があるように装着する。本製品内で窒息するおそれがあります。
- ・お子さまの顔が強く装着者の胸につき気道をふさぐ状態で使用しない。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。

タテ抱っこ

首すわり／体重  
13 kg

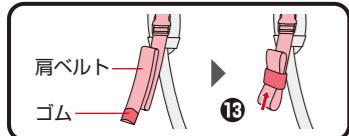
## タテ抱っこの装着方法（つづき）

- ⑩左右の肩ベルトをお子さまと装着者が  
こぶし1つの距離になるまで調節し、  
お子さまの位置を调える。  
⑪あまつたベルトをゴムでまとめる。



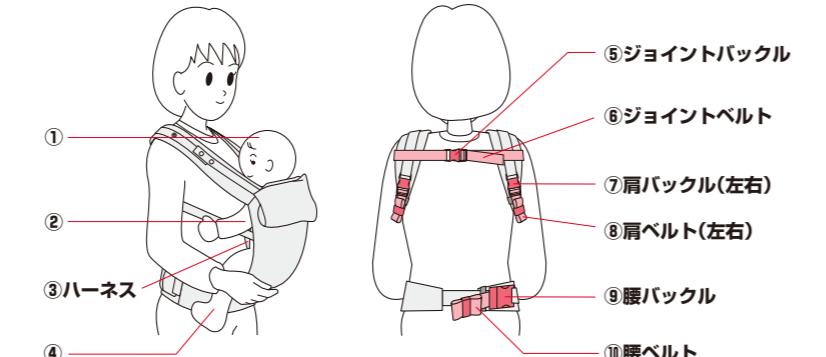
## アドバイス

- 肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。



## タテ抱っこの確認

- |                                |                      |
|--------------------------------|----------------------|
| ①お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない        | ⑤ジョイントバックルが確実にとまっている |
| ②お子さまの両腕が出ている                  | ⑥ジョイントベルトを調節している     |
| ③ハーネスのバックルが確実にとまっていてベルトを調節している | ⑦肩バックルが確実にとまっている     |
| ④お子さまの両足が出ている                  | ⑧肩ベルトを調節している         |
|                                | ⑨腰バックルが確実にとまっている     |
|                                | ⑩腰ベルトを調節している         |



- ・鏡に映して、抱っこ状態を確認する。  
正しく装着されていないと、お子さまが落したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

## 月齢が小さい時

- お子さまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを高い位置でとめると、より安定します。



- お子さまのお尻の下にタオルを入れ、高さを調節してください。



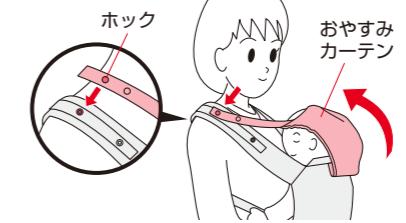
## おやすみカーテン

- お子さまが寝た時などに使用すると首が安定します。
- 風よけや日差しよけにもなります。

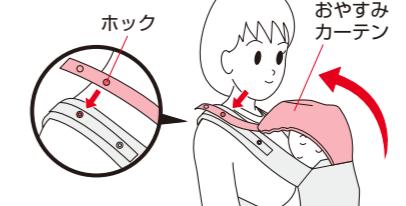
## &lt;調節方法&gt;

- お子さまの成長に合わせて(A)浅く、(B)深く、どちらかで調節してください。

## &lt;A&gt;浅く



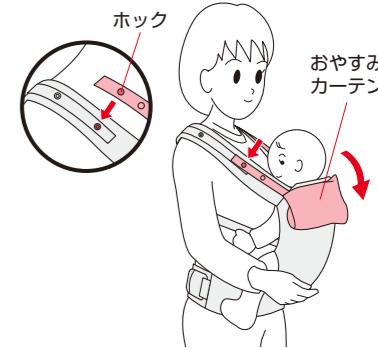
## &lt;B&gt;深く



- ・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意する。  
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

## &lt;使用しない時&gt;

- ホック位置を下げて付け、おやすみカーテンを二つ折りにする。



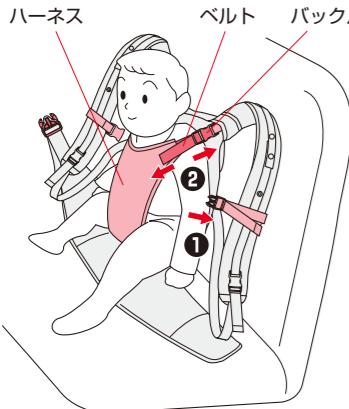
# おんぶの装着方法

(つづく)

- 腰バックルとジョイントバックルを外す。
- お子さまを乗せて、ハーネスのバックルをとめ、ベルトを調節する。

## アドバイス

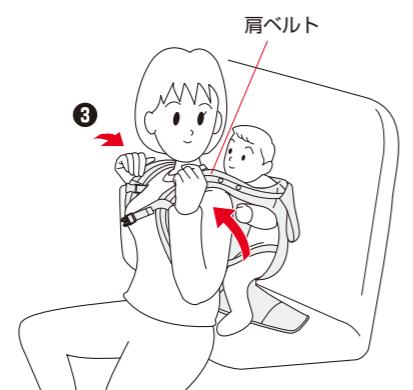
- お子さまの成長に合わせて、ハーネスのバックルを腕の上から又は、腕の下からとめる。



**警告**

- お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。特に、ひとり座りができる前のお子さまをおんぶする際には他の人に手伝ってもらうとより安全です。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ハーネスを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。

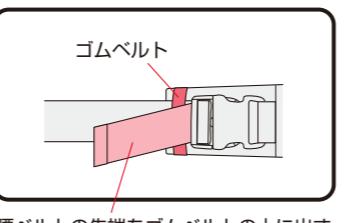
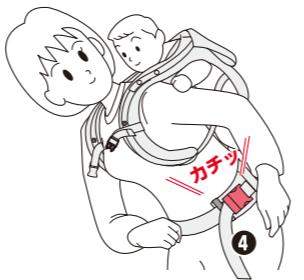
- 左右の肩ベルトをかける。



**警告**

- お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもの潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- お子さまの足が腰ベルトと装着者の間に挟まらないよう注意してください。

- 前かがみの体勢でお子さまを背負い、腰バックルをゴムベルトに通し、とめる。



**注意**

- お子さまの足が腰ベルトと装着者の間に挟まらないよう注意してください。
- 気道がふさがると窒息するおそれがあります。

- お子さまのお尻の位置が腰ベルトより高くなるように調節する。(左右の肩ベルトを調節したり、腰ベルトの位置を下げる。)

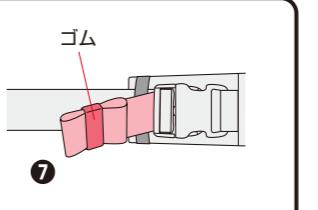
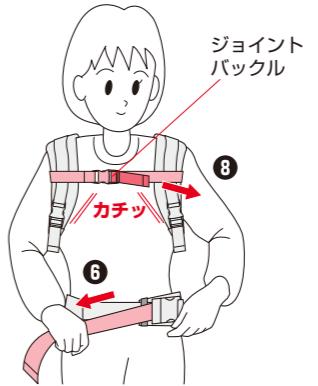


**アドバイス**

- お子さまが装着者の腰に安定する位置にする。

- 腰ベルトを調節する。

- あまつたベルトをゴムでまとめる。
- ジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。



- 左右の肩ベルトを調節する。
- あまつたベルトをゴムでまとめる。



**アドバイス**

- 肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。

# おんぶ

15 kg

首すわり～体重  
15 kg

24

# おんぶ

首すわり～体重  
15 kg

23

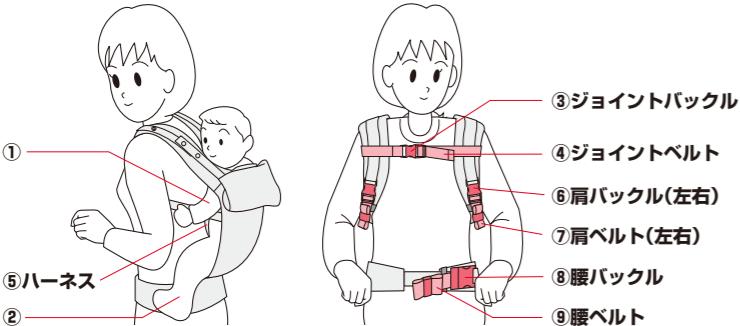
## おんぶの装着方法（つづき）

①鏡に映して、おんぶの状態を確認してください。

※正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

### おんぶの確認

- ①お子さまの両腕がでている
- ②お子さまの両足がでている
- ③ジョイントバックルが確実にとまっている
- ④ジョイントベルトを調節している
- ⑤ハーネスのバックルが確実にとまっている
- ⑥肩バックルが確実にとまっている
- ⑦肩ベルトを調節している
- ⑧腰バックルが確実にとまっている
- ⑨腰ベルトを調節している



**警告**

- ・鏡に映して、おんぶの状態を確認する。
- ・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外で出でていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下したり、けがをするおそれがあります。
- ・正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

**注意**

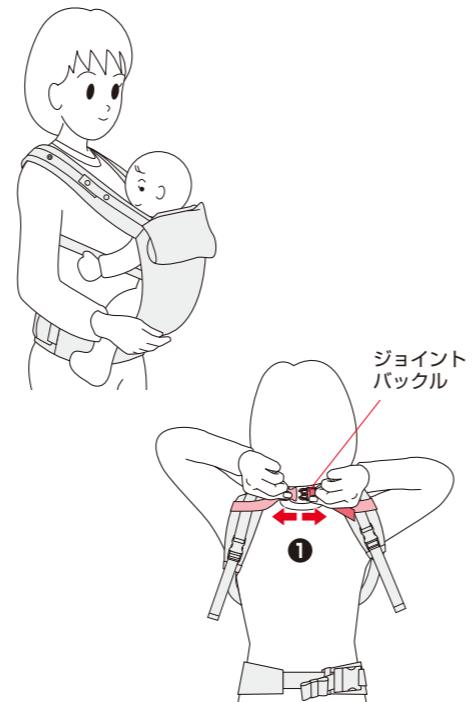
- ・装着者が痛みや不快を感じた場合は使用を中止してください。特に、授乳期のお母さまは、乳房を圧迫するおそれがあります。

おんぶ

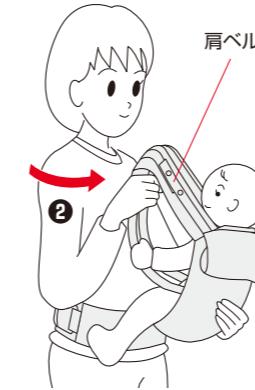
首すわり～体重  
15 kg

## タテ抱っこからおんぶへ

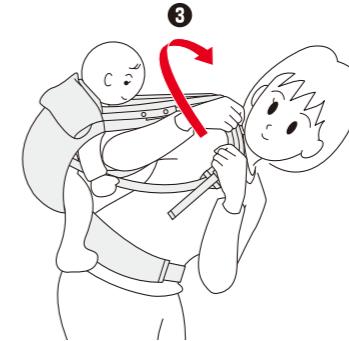
①タテ抱っここの状態でジョイントバックルを外す。



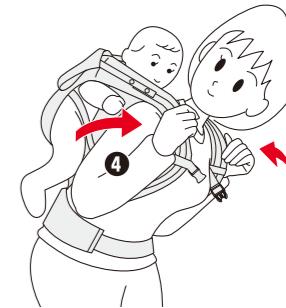
②左右の肩ベルトを肩から外し、まとめる。



③肩ベルトをしっかりと持ち、前かがみの姿勢になり、お子さまを支えて背中側にまわす。



④左右の肩ベルトをかける。



（つづく）

おんぶ

首すわり～体重  
15 kg

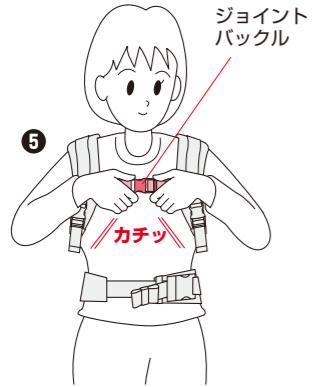
**警告**

- ・抱っこからおんぶへ変える時は、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝ってもらうとより安全です。  
**不安定な場所などでは、お子さまが落ちるおそれがあります。**
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。  
**気道がふさがると窒息するおそれがあります。**

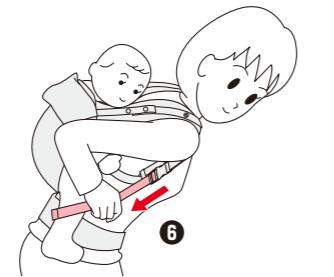
**注意**

## タテ抱っこからおんぶへ(つづき)

⑤ジョイントバックルをとめ、  
ジョイントベルトを調節する。



⑥左右の肩ベルトを調節する。  
⑦あまたったベルトをゴムでまとめめる。

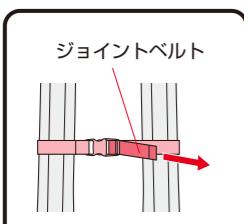


⑧鏡などに姿を映して、おんぶの状態を確認してください。(P25参照)  
正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。



おんぶ

首すわり～体重  
15kg



### アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。

**警告**

- ・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下したり、けがをするおそれがあります。
- ・正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

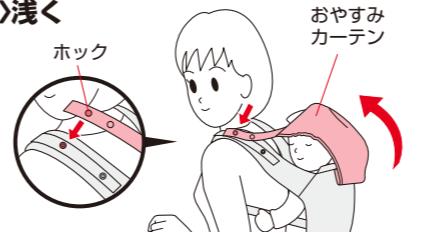
## おやすみカーテン

- ・お子さまが寝た時などに使用すると首が安定します。
- ・風よけや日差しよけにもなります。

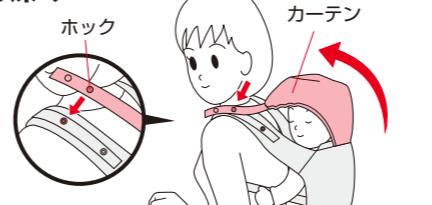
### 〈調節方法〉

- お子さまの成長に合わせて〈A〉浅く、〈B〉深く、どちらかで調節してください。

### 〈A〉浅く



### 〈B〉深く



### アドバイス

・鏡などに姿を映して、おやすみカーテンがお子さまの頭を覆っていることを確認してください。  
正しくできていない場合は、もう一度調節しなおしてください。

**警告**

- ・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意する。  
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

### 〈使用しない時〉

- ホック位置を下げて付け、おやすみカーテンを二つ折りにする。



おんぶ

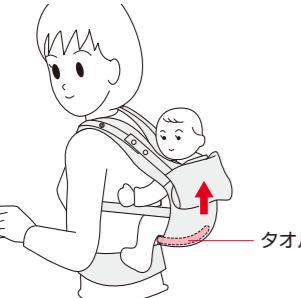
首すわり～体重  
15kg

## 月齢が小さい時

- お子さまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを高い位置でとめると、より安定します。



- お子さまのお尻の下にタオルを入れ、高さを調節してください。

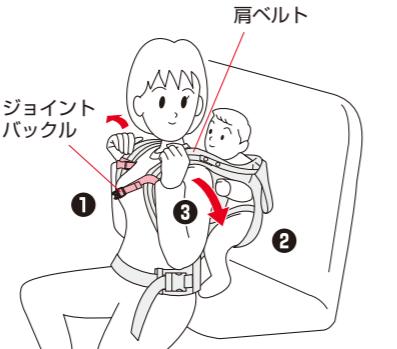


おんぶ

首すわり  
体重  
15 kg

## おんぶの降ろし方

- ジョイントバックルを外す。
- お子さまをゆっくり降ろす。
- 肩ベルトを外す。



- 腰ベルトを外す。
- ハーネスのバックルを外す。



### アドバイス

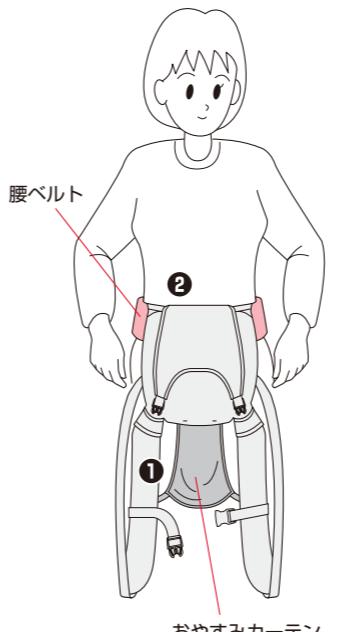
- イスが無い場合は、おんぶからタテ抱っこに戻して(P27 ❶→P26 ❶→❷→❸ 参照)、安全な場所にお子さまを降ろしてください。



- お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝ってもらうとより安全です。**不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。**

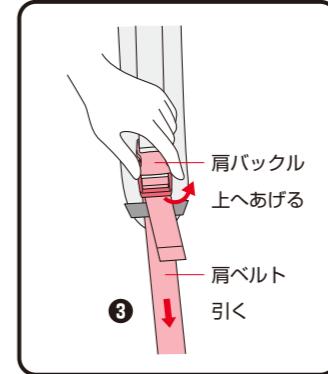
## 前向き抱っこの装着方法

- おやすみカーテンのホックをとめる。(P22「使用しない時」参照)
- P18「タテ抱っこの装着方法①～③」を参考して腰ベルトをとめる。

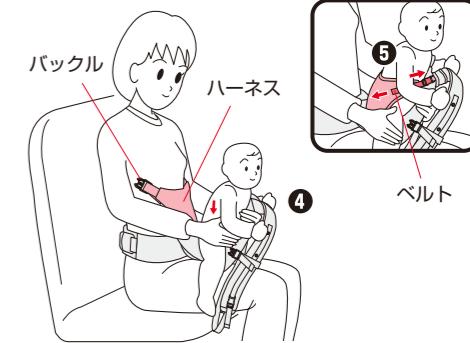


- 肩ベルトを長めに調節する。

〈長くする時〉



- お子さまの体を前向きに抱っこひもに乗せる。
- 片方の手でお子さまを支え、ハーネスのバックルをとめ、ベルトを調節する。



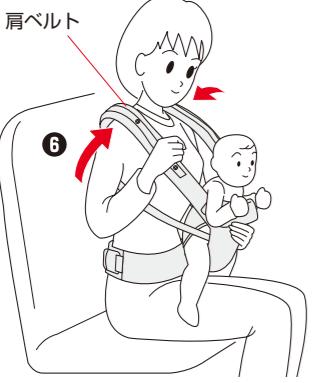
ひとり座り  
体重  
13 kg

前向き抱っこ

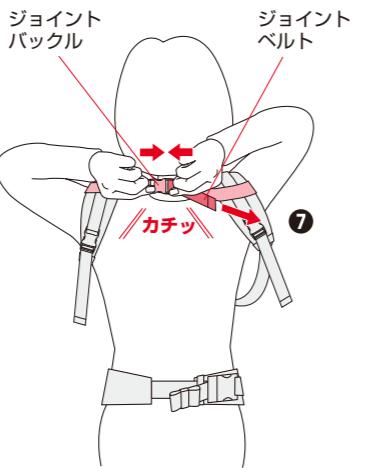
- お子さまが反り返ったり体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落ちたり、けがをするおそれがあります。
- お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落ちるおそれがあります。
- ハーネスを外した状態で使用しない。お子さまが落ちし、けがをするおそれがあります。

## 前向き抱っこの装着方法 (つづき)

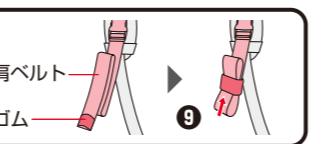
⑥片方の手でお子さまを支え、左右の肩ベルトを両肩にかける。



⑦首の後ろでジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。



⑧肩ベルトを調節する。  
⑨あまったベルトをゴムでまとめる。



ひとり座り／体重  
13 kg

前向き抱っこ

### アドバイス

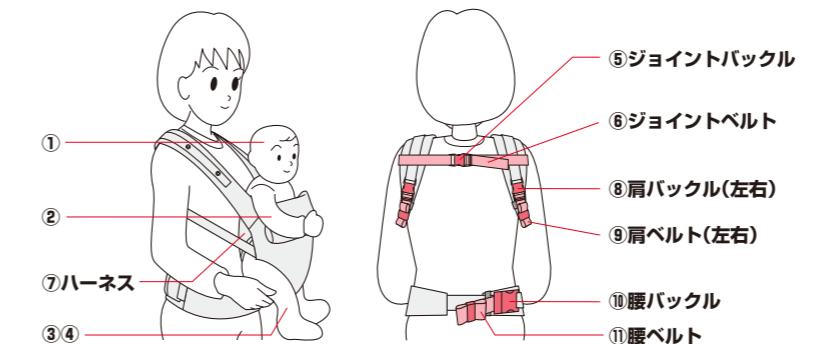
・お子さまの腕は肩ベルトの外側でも内側でも構いません。ただし外側に出している時に、お子さまが前のめりになる場合は、肩ベルトの内側に腕を入れてください。

⑩鏡に映して、抱っこの状態を確認してください。

※正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

## 前向き抱っこの確認

- ①お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない
- ②お子さまの両腕が出ている
- ③お子さまの両足が出ている
- ④お子さまが両足を自由に曲げができる
- ⑤ジョイントバックルが確実にとまっている
- ⑥ジョイントベルトを調節している
- ⑦ハーネスのバックルが確実にとまつていてベルトを調節している
- ⑧肩バックルが確実にとまっている
- ⑨肩ベルトを調節している
- ⑩腰バックルが確実にとまっている
- ⑪腰ベルトを調節している



### 警告

・鏡に映して、前向き抱っこの状態を確認する。  
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

## 前向き抱っこの降ろし方

①片方の手でお子さまを支え、安全な場所に座り、ジョイントバックルを外し、肩ベルトを外す。

②ハーネスのバックルを外す。

③お子さまを降ろす。



お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。  
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

ひとり座り／体重  
13 kg

前向き抱っこ

## 腰抱っこ(右抱っこ、左抱っこ、どちらでも使用できます。ここでは、右抱っこで説明しています。)

(つづく)

❶おやすみカーテンのホックをとめる。  
(P22「使用しない時」参照)

❷P18「タテ抱っこ」の装着方法❶～❸」を  
参照して腰ベルトをとめる。

❸左右の肩バックルを外す。

❹右側の肩バックルを左側の肩バックル  
にあるゴムベルトに通し、バックルを  
とめる。

❺右腕と頭を通し、肩ベルトをななめに  
かける。  
❻腰ベルトを右側にまわす。

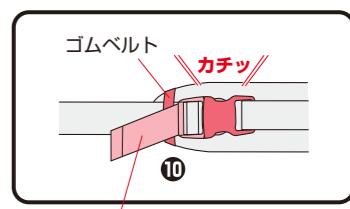
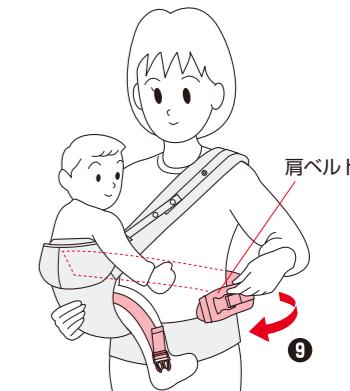
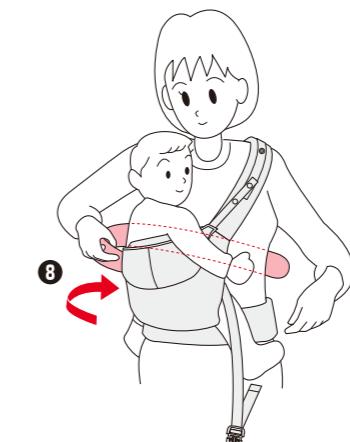
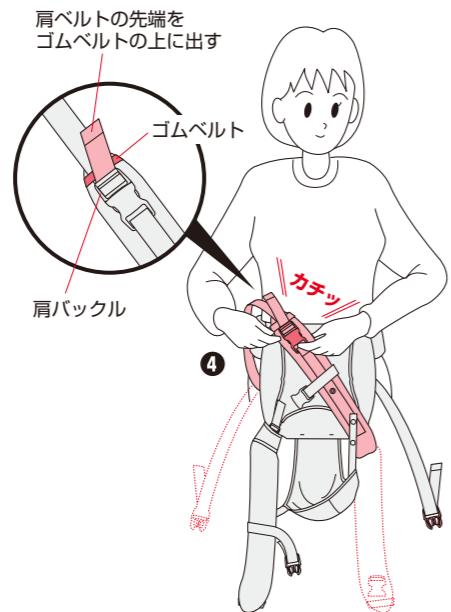
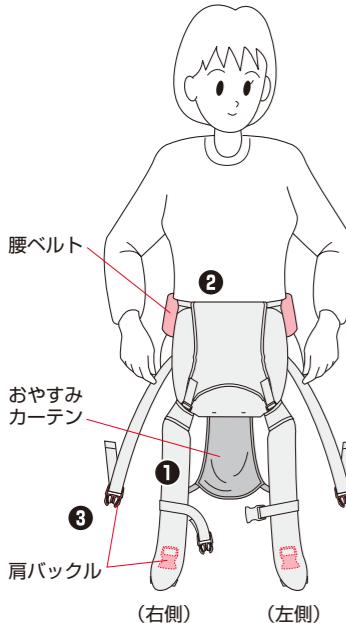
❼お子さまを抱き上げて、抱っこひもに  
乗せる。

❽背中側から右側の肩ベルトを腰に  
まわす。

❾腰にまわした肩ベルトを左側から出す。  
❿肩バックルをゴムベルトに通し、バック  
ルをとめる。

ひとり座り／体重  
15 kg

腰抱っこ

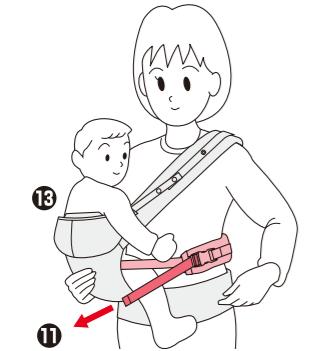


ひとり座り／体重  
15 kg

腰抱っこ

## 腰抱っこの装着方法（つづき）

- ⑪肩ベルトを調節する。
- ⑫あまたベルトをゴムベルトでまとめる。
- ⑬お子さまの位置を調整する。



### アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。

- ⑭鏡に映して、抱っこの状態を確認してください。  
※正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

### 腰抱っこの確認

①お子さまの両足が出ている  
②肩バックルが確実にとまっている  
③肩ベルトを調節している

④腰バックルが確実にとまっている  
⑤腰ベルトを調節している

①

②肩バックル  
③肩ベルト  
④腰バックル  
⑤腰ベルト

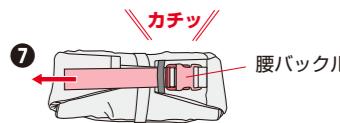
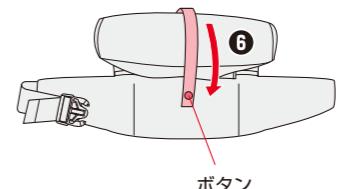
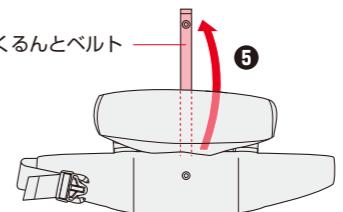
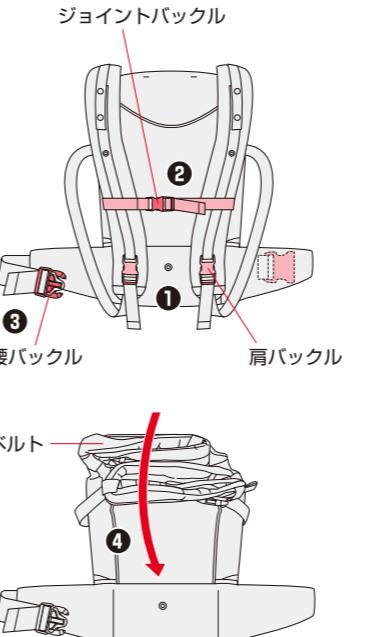
・お子さまを手で支えて使用してください。

**警告**

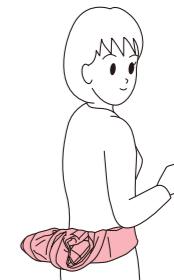
・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落したり、けがをするおそれがあります。  
・鏡に映して、腰抱っこの状態を確認する。  
正しく装着されていないと、お子さまが落したり思ひぬ事故につながるおそれがあります。

## 本体の折りたたみ方

- ①肩バックルをとめる。
- ②ジョイントバックルをとめる。
- ③腰バックルを外して、抱っこひもを広げる。
- ④左右の肩ベルトをまとめて、折りたたむ。
- ⑤腰ベルトからくるんとベルトを引き出す。
- ⑥くるんとベルトを巻き付け、ホックをとめる。
- ⑦腰バックルをとめて、腰ベルトを調節する。



⑥の状態で装着していただくこともできます。



## Q&A

**Q** ハーネスは子どもの腕の上でとめるべきですか？それとも腕の下でとめるべきでしょうか？

**A** お子さまの成長にあわせてどちらでもご使用いただけます。

目安として腰すわり前のお子さまには、ハーネスのバックルを腕の上から、腰すわり後のお子さまには、ハーネスのバックルを腕の下からとめてあげるようにしてください。

**Q** タテ抱っこ時、体が埋もれる感じになり、子どもの顔が見えない状態ですが、このまま使用してもいいですか？

**A** お子さまの身長に対して背あて部分が長い場合は、お子さまのお尻の下にタオルなどを敷いて、お子さまの高さを調節してください。また、腰ベルトを少し高めのウエストあたりに装着するようにしてください。(P22, P29参照)

**Q** 腰ベルトをどのあたりに装着すればよいですか？

**A** 一般にウエストより少し下の、腰骨あたりに装着すると、より負担が軽減されます。お子さまの身長にあわせて、適切な位置に調節してください。

**Q** ベルトの余りが長く垂れ下がって気になります。

**A** ベルトはゴムでまとめる事ができます。(P9, P10, P13参照)

**Q** タテ抱っこ時、子どもの肩が外に出てしまうのですが、大丈夫でしょうか？

**A** お子さまの腕が外に出てしまっても、使用上の問題はありません。ただし、特に腰すわり前のお子さまは上半身が不安定ですので、手で支えるようにしてあげてください。

**Q** 抱っこひもの生地と子どもの肌が触れる部分が赤くなる時があるのですが…。

**A** お子さまの肌に抱っこひもの跡がついたり、肌がこすれて赤くなる場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当て、抱っこひもが直接触れないようにしてください。

## 点検について

- ご使用の前に、バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずが無いことを確認してください。  
異常がある状態で使用すると、事故につながるおそれがあります。

## お手入れについて

### 〈軽度の汚れの場合〉

- 湿らせた布でたたいて汚れを落としてください。

### 〈洗濯する場合〉

#### 本体・新生児シート



※洗濯ネット使用、ねじり又は絞り禁止

- 注意**
- 抱っこひものみおよび、新生児シートは乾燥機を使用しないでください。
  - 他の物とは別に洗濯してください。色落ちし移染するおそれがあります。
  - 蛍光剤入りの洗剤を使用しないでください。
  - 漂白剤を使用しないでください。
  - 濡れたまま放置しないでください。カビなどが発生するおそれがあります。
  - 洗濯後、充分乾燥させて使用してください。乾燥が不充分な場合、カビなどが発生するおそれがあります。

その他

## SGマーク制度について



SGマーク付き製品は安全性が高く、安心してお使いいただけるものですが、製品安全協会では損害保険会社と生産物賠償責任保険の契約を結んでおり、SGマーク付き製品の欠陥により、人身被害が生じたと認められる場合、事故原因、被害の程度などに応じて、賠償措置を実施します。

ただし、抱っこひもの場合、ご購入後3年以内の製品が対象となります。

〈抱っこひものSGマーク制度の適用対象月齢は以下のとおりです。〉

- ヨコ抱っこ：新生児期(0ヶ月)から4ヶ月(体重7kg)まで
- タテ抱っこ：4ヶ月から24ヶ月(体重13kg)まで
- 前向き抱っこ：7ヶ月から24ヶ月(体重13kg)まで
- 腰抱っこ：7ヶ月から36ヶ月(体重15kg)まで
- おんぶ：4ヶ月から36ヶ月(体重15kg)まで

### 賠償についてのご注意

SGマーク被害者救済制度は、SGマーク付き製品の欠陥によって傷害などの身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。この制度は、SGマーク付き製品そのものが故障した場合に補償するものではなく、また、SGマーク付き製品の欠陥によって他の物に生じた損害(物的損害)を賠償するものではありません。

### 製品の欠陥によって事故が起きた場合

事故が起きたら、すぐに製品安全協会へ連絡してください。  
連絡後、製品安全協会から送付されてくる事故発生届等を提出していただきます。(原則として60日以内)

製品安全協会 〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズ三ノ輪2階 TEL 03-5808-3300

### 〈事故の届出に必要な項目〉

- ①事故の原因となったSGマーク表示の製品  
イ)製品の名前、SGマーク番号　ロ)製品の購入先、購入年月
- ②事故発生の状況  
イ)事故発生年月日　ロ)事故発生場所　ハ)事故発生状況
- ③被害の状況  
イ)被害者の氏名、年令、性別、職業、住所　ロ)被害の状況と程度

その他

## 保証とアフターサービスについて

- ・保証期間中(お買い上げ日より1年間です。)に部品の欠品、不良加工など弊社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、保証規定にもとづき無償にて対応を致します。ただし、部品の色・柄などについては、ご希望に添えない場合があります。また、製造中止後の製品については、対応出来ないこともあります。

### アフターサービスについての連絡先

アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社

〈電話連絡先〉

お客様サポートセンター TEL **0120-415-814**

携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担) TEL **0570-004-155**

受付時間:AM10:00~PM5:00(土、日、祝日、弊社所定休日を除く)